

追悼文



是常正美先生のご逝去を悼む

教育学部 小笠原 道雄

名誉教授、是常正美先生が去る4月6日、76歳でお亡くなりになりました。先生は昭和15年3月、広島文理科大学教育学科をご卒業後、広島師範学校教諭にご着任、広島大学東雲分校助教授を経て、昭和31年7月教育学部に配置がえとなられ、昭和49年4月同教授に昇任されました。昭和51年の停年退官を迎えられるまで、永きにわたって教育学の研究と教育に専心されてきました。

先生のご専門は教育哲学、とりわけ教育学の完成者ヘルバルトについてのご研究であります。昭和32年に『ヘルバルト研究』によって文学博士号を授与されて以来、先生は日本におけるヘルバルト研究の第一人者としての地位を確立され、学界においてもその業績は高く評価されて

おりました。さらに難解なヘルバルトの著作を精密にかつ見事な文章で訳出することに心血をそそがれ、昭和54年にはそれまでのご研究の集大成ともいえる『ヘルバルトの教育学』を公刊されております。広島大学ご退官後も西ドイツのヘルバルト研究者と研究交流を深められるなど、先生の研究に取り組まれる真摯な姿勢、やむことのない研究心はひとえに私たちの範とするところでした。

先生は一念ひたすら学問研究の完成と後進の育成に努めてこられました。学問の道は険しくただ一日一時間をこつこつとのぼりつめることが我々の道である、このことを先生のお姿は常に示されていたように思います。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。



平賀春二先生のご逝去を悼む

学校教育学部 高橋 久

広島大学名誉教授、平賀春二先生が、さる4月24日、狭心症のため逝去されました。享年85歳。

明治37年広島県にお生まれになった先生は、広島高等師範学校、京都帝国大学に学ばれた後、昭和7年より海軍教授として、海軍兵学校に、また戦後は広島師範学校教授を経て、24年より広島大学教授として教育学部東雲分校にご勤務。この間三期6年にわたり分校主事として教員養成・学部発展のため尽力されました。42年停年ご退官の後には、55年まで比治山女子短期大学にご勤務、学生部長なども勤められました。

平賀先生は海語研究に関しては、わが国の第一人者で、『英和海語大辞典』の編纂が生涯の目標であり、そのため長期にわたり膨大な資料

を収集されてきました。その成果の一部は『英和大辞典』（研究社）などに見る事ができます。私は英字新聞の一面に‘Battleship or Scholarship’ という見出しを見た時、「Ship という文字が目に入るとはっとするんだ」と、ある時ふと先生が洩らされた言葉を思い出しました。この辞典の完成を待たずしての先生のご他界は、まことに残念なことであり、先生ご自身にとりましても、どんなにか心残りでありましたことと推察されます。

学問と生活態度には極めて厳しかった反面、学生一人一人に優しく慈父のように接しられた先生を、皆は親しく「源内先生」と呼び、深く敬愛し慕っておりました。

心より、先生のご冥福をお祈り申し上げます。